

参院選野党共闘30人支持

立民県連幹部47人調査

共同通信社は、三十日投開票の立憲民主党代表選の争点などに關し、四十七都道府県連の幹部に聞き取り調査を実施した。来年夏の参院選改選一人区について、三十人が共産党を含めて野党候補を「一本化すべきだ」と回答。一本化不要は五人にとどまった。無回答などは十一人。中部では岐阜、三重、愛知、滋賀、福井、石川、富山、静岡が「一本化すべきだ」とし、愛知は無回答だった。

衆院選では共産との共闘が批判が比例代表の不振につながったとの見方がある。立候補した四氏はそろって共闘継続を唱えてお

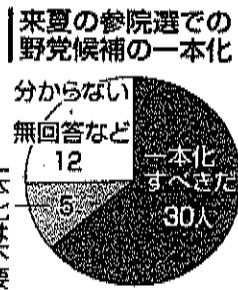
り、地方組織でも支持する意見が多いことが裏付けられた形だ。

調査は各都道府県連の幹事長ら幹部の地方議員計四十七人に尋ねた。回答者の個人的見解のため、地方議員に直結しない。

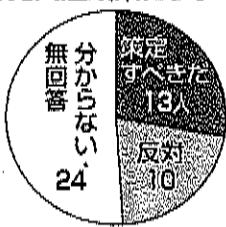
上回ったものの、無回答・分からぬが愛知、岐阜、三重、石川、静岡など三十四人と、対応を決めかねている現状が浮かび上がった。日本維新の会との候補者は

も共産などと事実上の共通政策を策定すべきだとしたのは、長野、滋賀、福井、富山など三十一人が反対した。愛知、岐阜、静岡を含む十九人が無回答・分からぬなどだった。

代表選は国会議員百四十人や地方議員千一百六十五人、約十万人の党員・協力党員らが投票。地方議員票は投票総ポイントの25%を占めており、各候補者に「ドント方式」でポイントが配分される。



来夏の参院選での野党候補の一本化



※都道府県連幹部に調査